

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|---|
| 学校名 | 唐津市立外町小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 「学力向上アクションプラン」（唐津市教育委員会推奨）に則った授業を繰り返し行うことで、授業の流れの型が教師も児童も身につけてきた。更に、授業の質を上げるために、「主体的・対話的で深い学び」を実現した授業を進めていく必要がある。 保護者アンケート等の結果を見ると、児童の「読書」「挨拶」「言葉遣い」が課題であるという意見が多かった。「心の土壌を豊かにする」「より良い関係をつくる」「相手を思いやる」児童を育てるための取組を今後も継続して行っていく必要がある。 |
| 2 学校教育目標 | 「つよく」「かしこく」「あたたかい」子どもの育成 |
| 3 本年度の重点目標 | <p>①「学力向上」→算数科を中心に、「授業が面白い」「次の授業が楽しみ」という状況を作り出すとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現した授業を展開しながら、学力向上を図る。</p> <p>②「心の教育」→「元気なあいさつ」「やさしい言葉」指導を徹底するとともに、授業や学校行事等を活用しながら、道徳教育や人権教育の充実を図る。</p> |

| 4 重点取組内容・成果指標 | | | | 5 最終評価 | | | | 主な担当者 |
|--------------------|--|--|--|--|---|---|---|---|
| (1) 共通評価項目 | | | | | | | | |
| 評価項目 | 重点取組 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 最終評価 実施結果 | 学校関係者評価 | | |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 | ・校内研修等でマイプランの活用方法を共有する場、達成状況を確認する場、課題点を共有する場を設け、取組の促進を図る。 | B | 「学力向上アクションプラン」の学習過程で授業を進めることが定着した。書く活動を各学級取り入れているが、十分な成果を上げるには至っていない。 | B | ・学校で授業が共通の流れできているのは、次に何をすればいいのか分り、子供たちが戸惑わないですむのもとても良いことだ。課題があることなので、落ちこぼれを作らないように、頑張っ指導していただきたい。 | 学力向上対策コーディネーター |
| | ○「主体的・対話的で深い学び」を実現した楽しい授業の実践 | ○授業に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 | ・「自己肯定感の高まりー自他への思いやり」につながる年間を通した人権集会を数回設定する。 ・道徳に関するアンケートを実施する。 | ・「自己肯定感の高まりー自他への思いやり」につながる年間を通した人権集会を数回設定する。 ・道徳に関するアンケートを実施する。 | A | 毎月末の道徳アンケートを基に、児童への聞き取りを行い、必要に応じて教育相談を行った。全校でのいいところ探しの活動や、ハートフル集会などを通して、自分の良さ気付けない児童や、自己肯定感の低い児童も、今まで気付かなかった自分の良さに気づき、前向きにがんばろうとする児童も見られるようになった。また、周りにいる人に感謝して思いやりを大切にしようとする心も育った。 | A | ・自己肯定感を高めることは、自信をもって生きていくためにはとても重要なことだと思ふ。また、周りの人への感謝の気持ちを道徳教育を中心に行っていたことと、このことで、継続してぜひ行っていただきたい。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 | ・毎月1回、いじめの早期発見につながるアンケートを実施する。 ・毎週1回、気になる児童の情報共有の時間を設定する。 | A | ・活動に制限がある中、実行可能な目標を各自設定し、成功に向けて努力することができた。成功体験が自信となって、次の活動や日々の生活に前向きに取り組むことができた。また、自分や周りの友達よさや成長に気づくことができた。 | A | ・全職員で子どもたちを見守っていただいているので、子どもたちの様子の変化によく気付くことができると思う。 | 生活部 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○いじめ防止等について、組織的な対応ができていないと回答した教員100% | ・授業や学校行事等を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・活動のふりかえり(「目標を達成するためにがんばったか」)の時間を設ける。 | A | ・日常の交通安全指導を行った結果、多くの児童に交通規範を守ろうという意識をもたせることができた。しかし、自転車での飛び出し事故があったので、全校的に指導をした。 | B | ・新型コロナウイルス感染症の中、教育活動が難しいとは思いますが、常に前向きにとらえ今できる可能なことを子供たちと一緒に考えて、実践されているのは大変素晴らしいことだと感じた。 | 特活部 |
| | ◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動 | ◎自らの夢や目標の実現に向けて努力しようとしたと回答した児童90%以上 | ・各学級で、毎日下校する前に、交通事故に気をつける話をする。 ・低、中、高学年の実態に応じた、交通安全教室を開催する。 | ・体育委員会によるチャレンジコーナーやジョギングタイム等を設定するとともに、「さがんキッズスポーツチャレンジ」を推奨する。 ・長縄や竹馬など、児童の活動意欲を高めるための場や道具を準備する。 | A | ・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・月曜日～木曜日の最終勤務時間のめやすを示す。 ・内容を精選し、会議の回数や時間を減らす。 | A | ・業務改善が進んでいるということで、大変良いと思う。先生方がリフレッシュされて、元気だと子どもたちも元気になる。 |
| ●健康・体づくり | ●安全に関する資質・能力の育成 | ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする | ・各学級で、毎日下校する前に、交通事故に気をつける話をする。 ・低、中、高学年の実態に応じた、交通安全教室を開催する。 | B | ・「さがんキッズスポーツチャレンジ」による体力向上を子どもが感じることができた。 ・クラス一つボールを配布したり、長縄や竹馬を貸し出ししたりすることで、子どもが外で遊ぶきっかけを作ることができた。 | A | ・外遊びをしている子どもたちが多いのはとても良いことだと思ふ。子どもたちが外で遊ぶ環境(道具等)が整えられているのが良いのだろう。 | 生活部 保体部 |
| | ○体力の向上 | ○運動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 | ・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・月曜日～木曜日の最終勤務時間のめやすを示す。 ・内容を精選し、会議の回数や時間を減らす。 | A | ・各目、各学年で主な行事・集会については、計画的に準備を進め、業務改善に大きく寄与できた。同学年での授業づくりやワークシートの作成等共有することができ、業務も減らすことができた。 | B | ・業務を効果的に減らすために、仕事の工夫改善をされているとのこと。継続して進めていっていただきたい。 | 管理職 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・学期に1回、一人一つ、業務改善案を考える場を設定する。 | B | ・後期は、若手教員を対象に特別支援コーディネーターによる通常学級の配慮を必要とする児童の理解と支援についての研修を実施した。実際に学級の児童を想定しながら、より具体的な研修をすることができた。 ・一年を通して教育支援委員会や特別支援コーディネーターの連絡会を開いて、配慮の必要な児童を把握し、支援や就学について検討したことを担任と連携して実施することができた。 | A | ・様々な個性を持った子どもたちに適切に対応するために研修を積んでもらっている。子どもたちも安心して過ごせていると思う。 | 特別支援学級担任 |
| | ○業務改善への意識の向上 | ○1年間で業務改善を3つ以上行う。 | ○特別な支援が必要な児童への支援のあり方が理解できた、またはほしい理解できた教員100% | ・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・教育支援委員会を通して、情報共有を行う。 | A | ・後期は、若手教員を対象に特別支援コーディネーターによる通常学級の配慮を必要とする児童の理解と支援についての研修を実施した。実際に学級の児童を想定しながら、より具体的な研修をすることができた。 ・一年を通して教育支援委員会や特別支援コーディネーターの連絡会を開いて、配慮の必要な児童を把握し、支援や就学について検討したことを担任と連携して実施することができた。 | A | ・様々な個性を持った子どもたちに適切に対応するために研修を積んでもらっている。子どもたちも安心して過ごせていると思う。 |

| | | | | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| ●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 | | | | | | | |
| 5 総合評価・ 次年度への展望 | <p>・授業の質向上を目指し、主体的かつ対話的な学びを意識した授業を算数科を中心に実施した。主体的な学びを実現するために、授業の導入と終末での工夫や、対話的な学びを実現するためのクラスやグループでのリレー説明等の効果的な指導を職員で共有し、実践できた。今後も授業の質の向上を目指し、取り組むたい。</p> <p>・読書量については、図書館教育の創意工夫した実践により、増加傾向にある。しかし、保護者アンケートからはまだ課題があるとの回答をいただいた。さらに、地域のボランティアと協力する等、読書量を増やす効果的な実践を継続して行ってきたい。</p> <p>・学校教育目標の柱の一つである「あたたかい」子どもの育成ということで、自己肯定感の向上、感謝・思いやりの心の醸成、暖かい挨拶の奨励を重点的に行うことができた。保護者アンケートからも8割程度の保護者から概ねできていたとの評価をいただいた。実践を継続していきたい。</p> | | | | | | |